

ケニア北部ロヤンガラニ地区における 半砂漠地域での植林緑化活動

〒157-0072
東京都世田谷区祖師谷4-1-22-2F
電話:03-3484-5092
E-mail:staff@icajapan.org
https://www.icajapan.org



ひろげる助成

3年目

実践



ゴヨニ小学校での植樹活動に参加する生徒

植樹 2,010本

研修参加者 153人

今年度計画の達成度 80%

活動の全体目標に対する達成度 85%

苦労した点と工夫した点



■ 苦労した点

事業地は通信環境が悪いため活動調整は苦労した。そのため、カウンターパートの能力強化を図り、事業の運営管理がスムーズになるようにした。

■ 工夫した点

アグロフォレストリーの実施にあたっては、ロヤンガラニの土壌がやせていたため、肥沃な土壌を近くの山から持ってきて実施した。

課題

過度な樹木伐採や家畜の過放牧等により、木々がほとんど無くなった半砂漠地帯の事業地では、早急に住民の緑化推進意識を向上させ、生活環境の改善を行う必要がある。

目標

①地域住民の70%以上が砂漠緑化への意識を向上させ、緑化活動が推進される。②80%以上の児童の環境への意識が向上する。③6部族が団結して緑化活動を実施する。

活動内容と成果

①多目的樹の植樹→6ヶ所に計2,100本の多目的樹を植樹。②前年度までの植樹した苗木の活着率調査→アルガロバは95%以上が活着し、家のフェンスとなっている。その他の苗木の活着率は71%。③アグロフォレストリー研修の実施と野菜の種の配布→2学校で実施し、131名が参加。④地域開発研修の実施→6ヶ村のリーダー計22名が参加。⑤リーダーシップ育成のための研修の実施→現地NGOコープケニアのスタッフに対しマネジメント研修、現地環境保護団体(ウモジャ)に対し育苗場の拡張の提案と指導。



村内では植樹した木が順調に成長している

全助成期間の活動を振り返って

継続した植樹と緑化活動により、ほとんど緑が見られなかった事業地に緑が多くみられるようになった。住民も「鳥が戻ってきた」、「木陰があることで住民同士の交流が増えた」等の変化を身をもって感じることで、緑化活動の重要性を理解し、女性を中心に木々の世話を積極的に行っている。このような住民の態度と環境の変化を目にし、繰り返しの講話や継続した活動が事業の定着と発展につながると痛感した。



異部族リーダーに緑化活動推進研修を実施

今後の展望

今後植樹等の活動は現地NGO コープケニアや環境保護団体ウモジャに移管し、当団体は活動のフォローアップを行うことで、事業の持続発展を図っていく。また、事業地で現在も課題となっている水問題の解消のための活動を模索し、将来的には植樹と連携させることで、緑化活動のさらなる発展を促す。